

日常を取り戻した学生生活・・・ コロナ禍を乗り越えて



東北大学医学部 医学部長

石井 直人

今年は4年ぶりに保護者の皆様にもご参加いただいた中で入学式を挙げる事ができました。様々な行事が完全対面でできるようになったことを大変嬉しく思います。

医療は患者さんからの信頼がなくては成り立たない職業ですが、人と人との良好な関係を自ら構築する力、いわば人間力のほとんどは大学生活で涵養されます。これまでの3年間はコロナ禍のために様々な大学生活が大きく制約され人間力を磨く場が狭まっていました。コロナが猛威を振っていた頃は全ての授業と一部の実習がオンラインとなっていました。この時期は不思議なことに、教員の介入が必要な学生間のトラブルが大きく減少しました。当初は喜んでいましたが、学生同士の接触がないことがトラブル減少の原因ということが徐々にわかってきました。実際に、授業や実習が対面に戻るとつれて学生間のトラブルの件数が増加し、いわば日常に戻りました。人は、特に若い多感な時期に友人同士で様々な経験を共有し時には反発し合うことで成長します。日常を取り戻した今こそ、学生の皆さんには学業だけでなくサークル活動やアルバイトなどの課外活動に大いに励み、人間関係で喜んだり悩んだりすることで人間力を身につけていただきたいと思えます。

さて、報道でご存知かもしれませんが、申請した10校の中で東北大学だけが国際卓越研究大学の候補に選定されました。東大、京大を差し置いて本学が選定されたことは本学の歴史初まって以来の快挙と言えます。国が設置した10兆円の大学ファンドか

ら25年間にわたって多大な支援を受けることで、世界トップの研究大学へと発展することが求められています。その核となるのは本学青葉山キャンパスに建設中の次世代放射光施設ナノテラスです。ナノテラスは、神戸にあるスプリングエイトの100倍の明るさの放射光を生み出せることからライフサイエンス分野での応用が期待されています。近い将来、同施設を活用した医学研究の成果を世界に発信したいと考えています。そして、医学研究推進の核になるのが東北メディカル・メガバンク機構によるゲノム医学を中心とした未来型医療の創出です。本年5月のG7科学技術大臣会合(仙台市で開催)で来仙した英国の大臣が、自らのご希望で同機構を訪問され、'Fantastic'と感想を述べたことは星陵キャンパスから発信する医学研究が世界から注目されていることにほかなりません。学生の皆さんに世界最高の研究環境の中で学業に邁進していただくためにも、将来、研究者として世界のトップで活躍していただくためにも、本学の医学研究をさらに大きく発展させる所存です。

東北大学は研究力だけでなく教育力でも高い評価を受けています。4年に1度審査される文科省の国立大学実績評価においても医学教育部門で全国1位の評価を受けました。コロナ禍を乗り越えて日常を取り戻した現在そして今後も、日本で最高の教育研究環境を学生の皆さんへ提供し続ける所存です。保護者の皆様におかれましては、引き続き本医学部の教育研究にご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

東北大学医学部学生後援会 (PTA) の活動に なお一層のご理解ご支援を

医学部学生後援会会長

黒澤 一



残暑の候、保護者の皆様方におかれましてはご健勝のことと存じます。また、この夏、広い範囲で大雨による災害などがあり、被害にあわれた保護者の方々もいらっしゃるのではないかと、またそのために学生さん達の生活に何らかの影響が出てはいないかと案じておりました。心よりお見舞い申し上げます。何かお力になれるようなことがありますでしょうか、後援会事務局の方に情報をいただければ幸いです。

東北大学医学部学生後援会 (PTA) は医学部医学科および保健学科の学生の保護者の会です。本学の教員ではあると同時に一在学生の保護者の立場でもあるため、ご縁もあって昨年度から会長をお引き受けしております。現在、講義や実習はほぼ従前の状況に戻っています。多くの学生の姿がそこかしこのキャンパス内で見られるようになりました。学ぶべき膨大な勉強と試験に追われながらも、課外活動や各々の趣味の活動およびアルバイトなど、いわゆる大学生らしい生活を送るツワモノ達をたのもしく見守る毎日です。

東日本医科学生総合体育大会 (略称：東医体) は、東日本の医療系学生のスポーツの祭典ともいべき大会です。スキーやアイスホッケーなどの冬の競技を除き、夏休みの時期を中心に開催されています。西日本には西医体があり、一部競技で東医体と西医体の優勝校が王座を争う全医体があります。参加人数からみると、日本の中では国体に次ぐ規模くらい大きな大会です。また、東医体とは別ですが、囲碁や将棋など、いわゆる文化部系の種目の大会もこの時期に開催されるものが多いようです。努力の成果

を發揮しようとする真剣な学生さんもいれば、思い出に参加するという学生さんもいるでしょう。少なくとも参加することには意義がありそうです。

去る7月26日、27日には、東北大学のオープンキャンパスが開催されました。星陵キャンパスにも沢山の高校生とその保護者の方々がお来場されています。学生さんたちが中心になって企画し、主要な準備を担っています。学生さん達の多くは、過去のオープンキャンパスに見学者として来場していた経験者でもあり、今回は、その先輩として大活躍です。私は今年の模擬講義の担当になり、呼吸の講義をしました。少し難しかったかもしれませんが、講義の中で呼吸の測定の実演もして、わりと盛り上がりつつとした次第です。後日オンデマンド配信があるそうですので、よろしければご覧ください。当日の会場には、4年生と3年生の学生さんが数名おられ、スタッフとして仲良く立派に仕事をさばっていました。

部活動で東医体に参加したり、スタッフとしてオープンキャンパスで活躍したりすることは将来の財産になることでしょうか。体験そのものが意味のあることだし、一緒に汗を流した仲間ができるからです。保護者の皆様方には、学生さん達への心からの応援をお願いする次第です。本年度も後援会は学生さん達が学びやすく生活しやすい環境を作るために、努力していきたいと思っています。現在、後援会の加入率は60%です。未加入の保護者の方々には、是非、後援会の活動をご理解いただくとともに、加入をご検討いただき、私共と一緒に学生さん達の応援の輪に加わっていただければと存じます。



「コロナ明け」の学びと知的「幸福」



医学部医学科長

高瀬 圭

2023年度は、「コロナ明け元年」ともいえる年度となり、4月には「ゼビオアリーナ仙台」を会場に、東北大学の入学式をご家族も出席いただける形で行うことができました。学術集会の多くも、昨年までの3年間のオンライン主体の開催形式から、現地のみでの開催形式に戻りました。重症患者さんもいる大学病院での実習では細心の注意を払っていますが、医学部生の授業は原則として全員が登校して講義や実習に参加しています。コロナ禍の3年間で講義資料や課題のデジタル化が進み、効率化した部分もあります。このまま便利なオンライン授業継続の希望をする学生もいますが、やはり、現地で顔を合わせながらの勉強にはかけがえのないものがあると思います。

7月26日、27日の両日には、4年ぶりの全面現地開催でオープンキャンパスが開催され、医学部のある星陵キャンパスには5000名を超える来場者がありました。灼熱の中で、学生ボランティアが高校生を研究室へ案内して医学の基本的事項や学生生活を説明するのを、医学を志す高校生が目輝かせて聞いている様子を見ると、我々も初心に帰って医療の基本を思い起こすよい機会となります。

こうした高校生が大学に入ると、大きな「学びの転換」があります。正しい答えを出すための勉強から、「問題点を見つける」「未解決のテーマを探す」学習をすることになります。とは言うものの、医学部は職業訓練を行う場でもあり、高度化・複雑化する医療を学ぶためにカリキュラムは年々忙しくなり、専門教育の比率が増加してきました。そんな中でも、総合大学である東北大学で学ぶ医学生には、リベラルアーツを学んでいただきたいものです。「頭脳次第で、世界は貧弱で味気なくつまらぬものにもなれば、豊かでおもしろ

く味わい深いものにもなる。」とは、私の好きなショーペンハウエルの「幸福について」の中の言葉ですが、生涯飽きずに医学を楽しむには、若い医学生には一見無駄に思えるかもしれない専門外のことを、たくさん知っていることが大事だと思います。何かの物事を「面白い」と感じて探求を始めることのできる能力はそこから涵養され、興味を感じることのできるという能力こそが知的「幸福」の大きな要素だと思います。

昨年までの3年間は、通常の学生生活を送ることのできない大変な時期でした。4年次学生は、本格的に大学に登校して全部の授業を受けるのは今年度が初めてのことで、「コロナ明け」への適応に苦労する学生がいるのも無理のないことだと思います。「愛せなければ通り過ぎよ。」というのは、ニーチェの「ツァラトストラかく語りき」の中の言葉ですが、医学部の専門科目は全て必修で「通り過ぎる」ことが許されていません。忙しいカリキュラムではありますが、人と接しながらの活動が可能な環境に戻ったことを生かして、多様な体験を積みながら、生涯に渡っていろいろなことを「面白い」と感じて、高校生の様に目を輝かせながら探求しつづける医師・医学生になっていただけることを期待しています。



オープンキャンパスで、1号館ロビーでの放射線診断学分野医学科ツアーに参加した高校生たち。

保健学科の近況～戻ってきた日常と続く挑戦～

医学部保健学科長

本間 経康



保護者の皆様、日頃より保健学科の教育研究活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。いつも変わらぬご支援に感謝申し上げます。世の中は、いろいろな日常が戻ってきて、「4年振り」と銘打つものも多く見かけます。大学も以前のような対面の活気を取り戻しつつ、この間発達した遠隔技術も上手く利用しながら、新しい時代を創造すべく挑戦を続けています。

2023年度の保健学科は4月に新入生149人を迎えスタートしました。看護学専攻73人、放射線技術科学専攻38人、検査技術科学専攻38人の新入生は川内キャンパスと星陵キャンパスで対面による講義や部活・サークル活動を通じて、学部内外の学生と交流し東北大での生活を満喫しています。在學生もほぼ以前の大学生活に戻りました。5月からのいわゆる5類感染症移行に伴って授業中のマスク着用は任意となり、文字通り顔の見える関係で、学生達の表情も明るくなったように感じます。一方、引き続き感染対策にも留意し、臨地実習等はもちろん、昨年ご紹介した講義棟での人流と換気の悪い密閉空間の自動検知/見える化システムの実証実験は継続しており、その成果は仙台市内の人流把握などへの展開も予定されています。

今回は、本年度久しぶりに対面で開催された行事から、3つほどご紹介します。

① 東北大学懇談会が6月17日(土)に開催されました。当日は川内キャンパスでの全学懇談会の後、星陵キャンパスに移動しての医学部プログラムでは、医学部ならびに保健学科全体のご紹介に続いて、在學生による学生生活の紹介や懇談がありました。また、前回ご要望いただいた保健



写真1：保健学科棟見学の様子

学科棟の見学も初めて実施し、30名を超す方々にご参加いただきました(写真1)。今後も同様な機会を企画予定ですので、是非ご来校ください。

② 7月26日(水)、27日(木)に東北大学オープンキャンパスが開催されました。オープンキャンパス実行役員学生の熟慮と頑張りにより、学生相談、模擬講義、研究室紹介、実習

紹介、高齢者・妊産婦体験など、保健学科3専攻の特長を踏まえた企画を行うことができ、2日間で5,000人を超える盛況ぶりでした。星陵地区での対面開催は4年振りで、前回の対面開催を経験したのは大学院生などごく一部だったため、ほとんど手探り状態だったようですが、当日は多くの学生ボランティアの協力と工夫もあり、参加した高校生は充実した時間を過ごすことができたと思います(写真2)。



写真2：オープンキャンパスでの高校生への説明の様子

③ 8月9日(水)に保健学科同窓会総会が対面と遠隔で開催されました。第一部では大学院生による研究発表がありました。保健学の大学院各コースから1名、合計3名が登場し、どれも大変興味深い内容であるとともに、看護学、放射線技術科学、検査技術科学と幅広い学問分野に触れる貴重な機会となり、予定時間を超過するほど質疑応答も活発でした。取り組むべき課題がますます複雑になり、1つの学問分野だけでは解決が難しくなっている昨今、学際性や異分野融合の必要性をあらためて実感できる機会となりました。第二部では活動計画などが審議され、本年度も引き続き学生や同窓生の活動を支援する方針等が承認されました。同窓会情報も是非ご覧ください(<https://www.hoken.alumni.med.tohoku.ac.jp/>)。

ところで最近話題の人工知能は、社会を変革する可能性を秘めていると言われていています。医療分野でも一部業務の代替による多忙な臨床現場での負荷軽減や人手不足の解消、さらには新しい医療技術への応用も期待される一方、いろいろな危険性や問題点も指摘されている諸刃の剣でもあります。本学では、最先端の道具を上手く、かつ正しく使いこなす能力を身につけられるような新しい教育にいち早く取り組み、従前の教育共々改善を継続しています(たとえばhttps://www.shp.hosp.tohoku.ac.jp/Clinical_AI/など)。学生達が健やかに堅実に学べるよう教職員一同努力してまいりますので、今後ともご支援よろしくお願いたします。

学位記伝達式を執り行いました

令和5年3月24日、東北大学学位記授与式が開催され、午後に医学部内で学位記伝達式をそれぞれの学科・研究科ごとに執り行いました。

学位記授与式と学位記伝達式内において、学内表彰が授与されました。

総長賞・医学部長賞は、本学・本学部の教育目標にかない、かつ、学業成績などが特に優秀な学生を表彰するものです。

<医学部医学科>

総長賞

・荒井啓太 ・石井佳恵

医学部長賞

・菊川柚奈

医学部学生顕彰(教育貢献部門) 学生代表

・熱海菜々子 ・荒井啓太 ・飯田怜央

<医学部保健学科>

総長賞

・検査技術科学専攻 清水夏海

医学部長賞

・看護学専攻 荒帆乃夏

・看護学専攻 鎌田若奈

・放射線技術科学専攻 菅原圭亮



八重樫医学系研究科長・医学部長挨拶の様子



医学科式典の様子



保健学科式典の様子

保健学科卒業生から花束をいただきました

令和5年3月23日に保健学科謝恩会幹事代表から感謝訪問として八重樫医学部長と学生後援会黒澤会長に感謝のお言葉と花束をいただきました。

八重樫医学部長から今後に向けて激励の言葉を贈りました。

卒業で忙しい中、ご来訪いただき誠にありがとうございました。

新天地でも健康に留意し、ここで学んできたことを活かし、これからも頑張ってください。今後の活躍に期待しております。



東北大学白菊会「鹿野記念奨学奨励賞」並びに「笠原賞」受賞のお知らせ



令和5年6月7日(水)、仙台国際センターにおいて東北大学白菊会第46回総会が開催されました。

東北大学白菊会は、約2,600名の会員を擁する篤志献体組織で、その協力範囲は、東北大学医学部、歯学部および東北医科薬科大学医学部に加え東北大学の若手外科医を対象とした手術手技研修等にも拡大されております。

冒頭、令和4年度にご逝去されました会員107名のご冥福を祈り、約300名の参加者全員による黙とうが捧げられました。

続く来賓挨拶では、石井直人医学部長より、無条件・無報酬の崇高な理念で医学教育を支えてくださる東北大学白菊会会員に向け、深い謝意が示されました。



東北大学白菊会では、過去に高額寄付をされた会員のお名前を冠した奨学奨励賞を2つ創設しており、「鹿野記念奨学奨励賞」では解剖学実習に真摯に取り組んだ2年次の学生を対象に、また「笠原賞」では臨床実習の場でより良

き医療人としての模範となった5年次の学生を対象に毎年学生表彰を行っております。

今年度、当学部からは以下の学生が受賞しましたのでご紹介いたします。

◎「鹿野記念奨学奨励賞」(賞状桶、奨学奨励賞金7万円)



【大和田祐二教授 小川真太郎さん 島田莉名さん 安川一東北大学白菊会理事長】

◎「笠原賞」(賞状桶、奨学奨励賞金50万円)



【大和田祐二教授 荒川尚輝さん 安川一東北大学白菊会理事長】

オープンキャンパス 2023 報告書

医学部オープンキャンパス推進委員会 委員長 古川 徹

令和5年7月26日(水)、27日(木)の2日間、4年振りに来場制限を設けなかった東北大学医学部オープンキャンパスが星陵キャンパスにおいて開催されました。猛暑の中、学生実行委員、学生ボランティア、教職員が一体となって5,050名の来場者をお迎えすることができました。



医学科からの報告です。4年前に実施した際に準じて各種企画を準備し、来場者に医学科をより深く理解してもらうことができるような内容となりました。

「医学科案内ツアー」は、研究現場、最新の研究・治療機器などを見学できる医学科ならではの企画です。以前は整理券待ちの長蛇の列ができるほどの人気の高い企画でしたが、今回は学生実行委員のオリジナル予約システムを活用し、並ばなくてもスマートフォンで予約を行える仕組みを導入しました。また、星陵オーデトリウム講堂にて大学の講義を体験する「模擬講義」、先端医療技術トレーニングセンターにて本物の手術道具に触れる「医療スキル体験・外科医ツアー」、長陵会館のクリニカル・スキルスラボにて心音・呼吸音聴診と血圧測定等を体験できる「医療スキル体験・内科医ツアー」と一次救命処置や気管挿管等を体験できる「救急体験」を行いました。いずれも熱心に参加する来場者がおり、大変好評でした。

この他、6号館にて開催した「学生と語ろう・入試相談会」では高校生からの様々な質問に医学科生が生の声で答え、いずれの企画にも多くの高校生が詰めかけました。

さらには、「大学病院」、「加齢医学研究所」、「エコチル調査宮城ユニットセンター」からも出展があり、参加者にとって得るものの多いオープンキャンパスになったかと思えます。



保健学科からの報告です。保健学科では専攻毎に「模擬講義」、「保健学科案内ツアー」、「実習体験コーナー」、「デモンストレーションコーナー」の企画を準備し、各専攻の特徴を分かりやすく理解できる機会を設けました。

また、「学生相談コーナー」の企画を準備し、受験に向けての準備や大学生活をイメージしてもらえるように、学生と直接相談できる場を設けました。

看護学専攻の模擬講義では、教員による模擬講義と学生による学生生活の紹介を行いました。また、実習体験コーナーでは、看護や医療を体験できる企画を複数行いました。

放射線技術科学専攻の模擬講義では、診療放射線技師の紹介や各研究室の紹介等を行いました。また、デモンストレーションコーナーでは、診療放射線技師の業務や放射線の計測を体験できる企画を行いました。

検査技術科学専攻

の模擬講義では、教員による模擬講義と学生による専攻紹介を行いました。また、実習体験コーナーでは、血圧・血糖検査の体験や手洗い後に手に付着した細菌を観察する企画を行いました。

いずれの企画も多くの高校生等が参加し、模擬講義を真剣に聞いたり、各種の体験を楽しんでいる様子が見られました。



今回は大変な猛暑の中での開催となったため熱中症等での体調不良者が心配されましたが、重篤な体調不良者や大きな事故もなく、4年前の対面開催に迫る参加者をお迎えして、大変盛況な2日間のオープンキャンパスとなりました。

最後に関係者を代表して、医学部学生後援会からのご援助に心から感謝申し上げます。

第62回全国七大学総合体育大会開催中

全国七大学総合体育大会、通称「七大戦」は、北海道大学・東北大学・東京大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学の七つの大学間で毎年行われている体育大会です。

参加者数は7,000人を超え、学生が主体となって行われるものとしては日本最大級の大会となっています。

競技は9月中旬まで続き、各大学が総合優勝を目指して競います。みなさまの熱い声援をよろしくお願いいたします。

※ 8月21日時点競技結果

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
大学名	大阪	東京	京都	東北	九州	北海道	名古屋
得点	119点	111点	109点	105.5点	99点	93点	73.5点

競技名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
アイスホッケー	東京	北海道	京都	東北	大阪	九州	名古屋
スキー	東北	名古屋	大阪	東京	京都		
航空	東京	大阪	京都	九州	東北	名古屋	北海道
男子ラクロス	東京	大阪	名古屋	京都	九州	東北	北海道
女子ラクロス	名古屋	東京	京都	東北	北海道	九州	
男子バスケ	東北	九州	京都	北海道	名古屋	大阪	東京
女子バスケ	九州	東北	大阪	名古屋	北海道	京都	東京

競技名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
男子硬式テニス	京都	東北	名古屋	大阪	北海道	九州	東京
女子硬式テニス	北海道	東北	九州	大阪	京都	東京	名古屋
少林寺拳法	東京	東北	九州	大阪	京都	北海道	名古屋
馬術	東北	東京	京都	九州	名古屋	北海道	
剣道男子	京都	東京	大阪	北海道	九州	東北	名古屋
剣道女子	東京	大阪	北海道	九州	名古屋	東北	京都
空手男子	北海道	大阪	京都	九州	名古屋	東北	東京
空手女子	北海道	大阪	京都	九州	名古屋	東京	東北
柔道	北海道	九州	東京、大阪	京都	東北、名古屋		
ヨット	京都	東京	大阪	九州	東北	北海道	名古屋
競泳男子	九州	東京	大阪	京都	北海道	東北	名古屋
競泳女子	九州	東北	大阪	東京	北海道	名古屋	京都
陸上男子	大阪	京都	名古屋	東京	九州	東北	北海道
陸上女子	大阪	京都	東北	名古屋	北海道	九州	東京
準硬式野球	名古屋	東北	北海道	大阪	京都	九州	東京

編集後記

医学部学生後援会(PTA)は、会員の皆様方、学生及び教職員の方々に支えられ本年度を迎える事ができました。心から感謝申し上げます。後援会といたしましては今後も助成及び学生の教育活動への支援などを継続して行い、医学部全体の充実をより一層図っていきたくと思っています。

学生後援会事務局 (PTA)

- 東北大学大学院医学系研究科・医学部ウェブサイト：
<http://www.med.tohoku.ac.jp/>
- 東北大学医学部学生後援会ウェブサイト：
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>
- Twitter : https://twitter.com/tohoku_univ_med
- Facebook :
<https://www.facebook.com/Tohoku.University.School.of.Medicine>



東北大学医学部学生後援会(PTA)事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1
TEL : 022-717-7870 E-mail : med-koen@med.tohoku.ac.jp
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>